

# 令和7年度 第2回学校運営協議会議事録

## さいたま市立川通中学校

1 日 時 令和7年11月19日(水) 14:00~15:30

## 2 場 所 川通中学校会議室

鈴木 寿武 (生徒指導主任)

茅野 真由 (研究主任)

田口 祐子 (さわやか相談員)

欠席者 委員 委員 委員	1	渡邊 美佐子	民生児童委員
	2	田中 久美子	バンビ保育園園長
	3	藤田 敦	上里小学校 校長

4 次第

- (1) 校長挨拶
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 学校の現況報告

- ①令和7年度学校教育活動の様子について「川中Today」（教頭）
  - ②生徒指導及び教育相談について（生徒指導主任・さわやか相談員）
  - ③学校課題研究について（研究主任）

## 「生徒のエージェンシーを育む教育の研究」

～主体的に自らの進路を切り拓き、社会で活躍できる生徒の育成～

- #### ④生徒によるキャリア教育活動の発表

### 3年生（赤ちゃん・幼児触れ合い体験）

## 1年生（フィールドワーク）

## 2年生（未来くるワーク体験）

## 4 組 (生活單元學習)

- #### (4) 川通中学校ボランティア制度の現状について（学校地域連携コーディネーター）

## 5 熟議「令和7年度 地域一体型のキャリア教育について」

### 【主な意見】

- ・生徒の発表を聞いて、小学生と中学生の数年しか変わらないのに、立派にたくましく成長している姿を感じ取ることができた。また、全学年のキャリア教育をテーマとした体験の生徒感想から、仕事を「自分のために」と考えるだけでなく、「何かのため」「誰かのため」といった内容があり、共通事項を見出すことができた。今後、地域全体でキャリア教育を進めていくうえでのキーワードとなるのではないか。
- ・職場体験を通じて、自分がやりたいことや将来の夢に気付くことができる貴重な機会である。また、今日のように、人前、大人の前でプレゼンテーションすることも、これから先、社会人になって生きてくる。「何かのため」「誰かのため」につながっていく。教育活動や様々な体験をそれだけで完結させずに、今後も継続・発展させて、その先に繋げてほしい。
- ・地域では高齢化が進み、若い人がなかなか自治会に入ってこない現状がある。地域を知ろうといった地元再認識につなげる一助となる機会を防災訓練のように自治会としても設定しているが、中学生が自治会を訪問する場の設定もとてもよい活動なので、続けてほしい。また、中学校のフィールドワークと地元の催しものとで何かドッキングできないか検討したい。
- ・未来くるワーク体験を受け入れた際、学校生活ではなかなか力が發揮できない生徒も、校外でのこうした職場体験では非常に生き生きと活動していた。「掃除、時間、挨拶」学校や日常生活で大事だと言われ、行っていることは、社会に出ても大切なこと。また、自分の子どもが「まち探検」でりそな銀行へ行き、本物の札束を見た感想を家で嬉しそうに話してくれた。家や学校ではできない体験を地域に出て、地域から学ぶことは大きい。未来くる先生として話をした際、真剣に聞いてくれている生徒の様子から、日ごろの学校での指導が丁寧に行われ、規律がしっかりと身についていることを感じた。
- ・学年ごとに違った職場体験、キャリア教育が行われ、将来について考える機会があってとてもよいと思う。
- ・自分の子どもは、職場体験や赤ちゃん幼児触れ合い体験を通じて、実際に今の職業選択に繋がっている。
- ・「挨拶はコミュニケーションの始まり」との感想があったが、人の繋がりを感じてくれたことが社会に出ている人間として嬉しい。
- ・何かをして「ありがとう」「よかったよ」そういったやりとりが心の豊かさにつながる。学校と家庭、地域でそういった場を多く設定し、キャリア形成につなげていきたい。

## 6 諸連絡 (次回以降の予定)

第3回 2月17日(火) 13:40~14:50